

# 委託

## Film Nexus – SEED

(実施団体: 特定非営利活動法人映像産業振興機構(VIPO))

### 目的・目標

国際的に通用するクリエイターを育成するため、教育機関と連携しながら海外での実践的なプログラムを開発・実施し、学生に国際的視野とネットワークを獲得させるとともに、教育機関・業界のニーズを反映した効果的なカリキュラムを構築し、優秀な人材の発掘と高度育成、さらには成果の国際発信を目指す。

### 概要

本事業では、国際的に活躍できるクリエイター育成を目的に、海外での実践的な教育プログラムを国内教育機関と連携して開発・実施する。学生の現状や教育機関・業界のニーズを調査し、プログラムに反映。特に優秀な学生向けの上級プログラムも展開する。国内外のカリキュラムを比較検討し、教育の質を高めるとともに、成果発表の場として卒業制作上映会を活用し、海外作品の上映や国内作品の海外展開も目指す。

(区分・分野)

映画

(対象となる職種)

監督、プロデューサー、技術スタッフ等

(育成人数)

42名/3年

### 3年目までの取組

#### 令和7年度(1年目)

映像系学生の実態調査(定量・定性)を実施し、教育現場の課題を把握。短期の海外パイロットプログラムを試行し、今後の育成プログラムの設計基礎とする。参加者アンケートによる効果検証も実施。

#### 令和8年度(2年目)

本格的な海外プログラムを実施し、実践的な国際教育を展開。優秀な選抜学生向けのアドバンスプログラムを開始。海外教育機関のカリキュラム調査や、S.T.E.P上映会での成果発表、海外展開の可能性も検討。

#### 令和9年度(3年目)

各育成プログラムを継続・強化し、制度化に向けた準備を進行。国内外の教育内容を比較・検討し、将来的な連携体制を検証。S.T.E.P上映会や国際映画祭出品等を通じ、ネットワーク形成と海外発信を推進。

### 5年目までの取組

#### 令和10年度(4年目)

調査・実施結果を国内教育現場にフィードバックし、教育カリキュラムへの反映を推進。海外プログラム・アドバンスコースの単位化や継続体制を整備を目指す。参加学生への次のステップ支援も開始。

#### 令和11年度(5年目)

これまでの調査・育成成果をレポートとして集約・共有し、モデル教育機関への支援を展開。プログラムの単位化や恒常的運用に向けた体制づくりを支援し、事業の持続的発展を目指す。

### 中核となる指導者等

・富山省吾氏(日本映画大学理事長)  
東宝にて映画プロデューサーとして数々の作品をプロデュース。東宝映画代表取締役社長など歴任。代表作にゴジラシリーズ12作品等。

・諏訪敦彦氏(東京藝術大学大学院映像研究科教授)  
映画監督として活躍。監督作として、『M/OTHER』、『ユキとコナ』(カンヌ映画祭出品)、『風の電話』(ベルリン映画祭出品、芸術選奨文部科学大臣賞受賞)。

2名の役割: 業界での実績を基にした教育機関側の意見や、企画プログラムへのアドバイス



### 国際的な場での実践の取組例

- ・Griffith Film Schoolでの2週間程度のプログラム  
開催地: オーストラリアのブリスベン  
期間: 2026年2、3月で実施予定  
指導者: Griffith大学Live Lab指定講師  
参加者: 映画・映像を学ぶ学生から選考予定



### 成果目標(見込)

### 目標値

国際的な活躍に必要なスキル習得のために開発・実証された育成プログラムの数	3年目: 7件 5年目: 11件
国内外の教育機関・専門機関・企業・団体等との連携数	3年目: 30件 5年目: 45件
育成プログラムの参加者が世界的に認知されている海外の芸術祭・文化施設・大学等の教育機関への参画や招へいを受けた件数	3年目: 42件 5年目: 74件
育成プログラムの実証に参加した人数	3年目: 42人 5年目: 74人

# 実施体制

